

おに がわら
鬼瓦

■ 出土地：円覚寺跡

2017年1月から新コーナー「まいコレ」がスタート！収蔵庫に眠るイチ押しの出土品を、月替わりで紹介します。

第1号を飾るのは、円覚寺跡の鬼瓦です。

円覚寺は、1494年に尚真王が、父・尚円王の御霊を祀るために建立したと伝えられる臨済宗の寺院です。

平成9年～13年にかけて実施された発掘調査では、鬼瓦とされる資料が22点、確認されました。うち仏殿地区攪乱層から出土した3片は接合が可能であり、左半分の顔面を確認することができます。他は額、鼻、牙、顎、左・右眉、右目、左・右頬の部分が見つかっています。

円覚寺の中でも、最も大きな木造建築であった龍淵殿には、かつて10の鬼瓦が棟先に配置されていました。出土した鬼瓦はその形から、龍淵殿の屋根に設置されていたものと考えられます。



円覚寺龍淵殿の鬼瓦

(鎌倉芳太郎 撮影)

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館所蔵